

2-17K-2-7 当院のレスパイト入院におけるリハビリ効果の探索

¹医療法人篤友会千里山病院, ²リハビリテーション科学総合研究所, ³篤友会リハビリテーションクリニック

中原 理¹, 丸山 伸廣¹, 元野 耕平¹, 三野 英孝¹, 松田 さほ¹, 栗田 樹¹, 谷山ゆりえ¹, 大辻真斗香¹,
吉田 直樹², 高橋 紀代³

1990年に在宅人工呼吸療法が保険適応となり, 2000年には介護保険法が制定され在宅療養に向けての制度が充実してきたことで, 在宅療養を行う神経難病患者の数は増加している. しかし, 患者が社会資源だけを利用して在宅療養を継続することは困難であり, 同居家族が介護しているのがほとんどである. このような家族介護者による介護負担を軽減する方策の一つとして「レスパイト入院」があげられる. レスパイト入院という用語はレスパイトケアが元となっており, 在宅療養中の障害児・者, 高齢者などのケアを他者が一時的に代替することで, 在宅で介護している家族を開放し, 日頃の身体的・精神的疲労などから回復を図る家族支援サービスをいう. レスパイト入院の先行研究として, 日本では2003年に初めて見られ, 対象として神経難病疾患が圧倒的に多く, 心身障害児, 末期癌, 自閉症などが挙げられる. 調査内容は介護者家族の心身状況・支援, 介護状況, QOLに関する因果モデル, ストレスに対する対処行動などがある. 有効性は在宅療養中の患者を介護している家族の介護負担の軽減を図る有効な手段であることが報告されている. しかし, レスパイト入院中にリハビリを行った患者のリハビリ効果についての報告は見当たらない. 当院では, 神経難病患者に限らず, レスパイト入院を積極的に受け入れており, 医師の指示の下リハビリテーションを提供している. 今回, 我々はレスパイト入院の対象者に対して, 経時的にADL, QOL, 患者満足度, 介護負担などの評価を行うことでリハビリ効果を探索したので報告する.